



# ともしび

— TO MO SI BI — 第259号

2017(平成29)年11月号

## 報恩講

朝晩は冷え込み、ひと雨ごとに寒さが増し、秋が深まってきました。この時期は、カゼなどで体調を崩しやすいのでお気を付けてください。

秋の深まりとともに、浄土真宗のお寺では、全国各地で報恩講(ほうおんこう)が勤められます。報恩講は、浄土真宗の宗祖・親鸞聖人の御命日である1月16日(旧暦は11月28日)の近い時期に、聖人のご遺徳を偲びつつ、お念仏申す気持ち新たにしている大切な行事です。ちなみに、本願寺派(お西)では1月16日、大谷派(お東)では11月28日をそれぞれ親鸞聖人の御命日として、報恩講がお勤めされています。

親鸞聖人のご往生は90歳で、当時としては大変な長寿でした。鎌倉時代の平均寿命は諸説ありますが、およそ50歳にも満たないほどであったことを考えると、それがよくわかります。しかし、そのご生涯は決して平坦なものではありませんでした。

当時、戦乱や飢饉により多くの人がいのちを落としていくなかで、人生の無常を感じ、人が救われていく道を求めていかれました。幾多の苦難に遭いながら、法然聖人という師に出会い、阿弥陀如来におまかせし、お念仏申す道を歩んでいかれたのです。

親鸞聖人の最晩年、お亡くなりになる直前に一説にはこのようなことを言われたそうです。

「私も浄土に還るときが来たようです。でも、あの和歌浦の片男波のように何度でも何度でも帰ってきますよ。」

一人で喜んでいと思ったら二人で、二人で喜んでいと思ったら三人で喜んでいと思うてください。また、一人で悲しんでいるときは二人で、二人で悲しんでいるときは三人で、と思ってください。その一人は、わたくし親鸞ですよ。

私がいなくなっても、お念仏のみ教えはなくならない。苦しみ、悲しみ、迷いの中にいる人々がいるときは、いつでも還ってきます。いつでも一緒にすよ。」

弘長二(1263)年1月16日にご往生された親鸞聖人は、阿弥陀如来と同じく、いつも私たちにはたらきかけてくださっています。「ナモアマミダブツ」は、阿弥陀如来の「私の名前を呼んでください。何時もあなたと一緒にいますよ。」という喚び声です。「ナモアマミダブツ」とお念仏申すところに親鸞聖人も一緒にいらっしゃるのです。

当会館におきましては、例年の通り11月23日に、午前(日中法要)と午後(逮夜法要)に報恩講をお勤めいたします。報恩講は、お念仏のみ教えを伝えてくださった親鸞聖人のご生涯のご苦勞を思い、そのご恩に感謝する大切な法要です。どうぞ、ご家族お揃いでお参りください。



# 仏事あれこれ

## 仏事のQ&A

Q. お仏壇のご主人は誰？

A. 阿弥陀さまです。

お仏壇は、仏さまをお迎えするために設けた家のようなところですので、浄土真宗で言えば阿弥陀さまがその家の「ご主人」になります。ご主人である阿弥陀さまを具体的に表したのがご本尊です。ご本尊はもつとも敬うべき礼拝の対象であり、本山に冥加金を納めてお迎えします。お迎えしたご本尊は、お仏壇の二つに区切られた中央のスペースに安置され、両隣りはお脇掛が奉懸されます。通常、ご本尊とお脇掛の三幅セットでいただきます。

それらを整理しますと：

中央⇨阿弥陀仏のお姿を描いた「絵像本尊」、または「六字名号本尊」

右脇⇨宗祖「親鸞聖人」の御影、または、「帰命尽十方無碍光如来」

左脇⇨本願寺中興の祖「蓮如上人」の御影、または「南無不可思議光如来」となります。

中央のご絵像の阿弥陀さまは立っておられます。これは、私たち凡夫をいつでもただちに救おうというお心の表れです。また、手の形も専門的には施無畏印（せむいいん）・与願印（よがいん）という印相ですが、私たちは、これを右手は「招喚」の印、つまり「真実の世界に帰ってこいよ」という願いを表し、左手は「摂取」の印、つまり「どんなことがあっても必ず救いとるぞ」との願いが込められていると味わってきました。

さらに、ご絵像のお体からは四十八本の金の光が放たれています。これは、阿弥陀さまの本願のはたらきを象徴しています。すなわち、迷いさまよう私たち一人ひとりを真実の世界に救いとろうと、四十八に選りすぐって誓われ、そして成就された本願が光明となって私に届けられているのです。（阿弥陀さまのお徳を表した「十二光」が四方に放たれているとの解釈もあります。）

ということ、ご絵像は単なる形ではなく、私に向けての阿弥陀さまの願いとほたらきを表しているのです。

お脇掛の名号については、「帰命」も「南無」も「まかせよ」という意味です。また「尽十方無碍光如来」とは、「あらゆる世界に届いて、けっしてきまたげられることのない光明をお持ちの仏さま」であり、「不可思議光」は「人が思いはかることのできない限りなき光明をお持ちの仏さま」という意味で、いずれも阿弥陀さまのことです。

したがって、両名号とも「南無阿弥陀仏」と同じく「この私にまかせよ、必ず光明の中に摂めとって救うから」という阿弥陀さまの尊いお心を表しているのです。

宗祖と蓮如上人の御影は、私たちに阿弥陀さまのお心を伝えてくださった大切な方々だから奉懸するのですが、そのお姿が阿弥陀さまの方を向いて念仏されていることにご注目ください。

こうしたご本尊・お脇掛を通して、仏さまのお心に触れるのです。

新・仏事のイロハ』より抜粋

# 10月行事の様子

## ★常例法座 10月15日(日) 13時～15時

朝から冷たい雨に見舞われ、18名のお参りとやや少なめの参拝でした。  
ご一緒に正信偈をお勤めし、ご講師・村上弘樹師よりご法話をいただきました。

雨模様の外観



勤行「正信念仏偈」



村上 弘樹師



10月の誕生日の皆さま



ご講師・村上先生は、現在都市開教専従員として、関東に新たなお寺を建てるため精力的に活動しておられます。今回はご自身の経験を交えながら、楽しくお話をいただきました。(写真上)

10月の誕生日の方は、お2人様でした。これからも元気で参拝ください。(写真左)

### 平成29年 年回表

1周忌	平成28年
3回忌	平成27年
7回忌	平成23年
13回忌	平成17年
17回忌	平成13年
23回忌	平成7年
25回忌	平成5年
27回忌	平成3年
33回忌	昭和60年
50回忌	昭和43年

### 平成29年の年回表

※参拝をご希望の方は、当会館までご連絡ください。  
現地集合・現地解散となります。

内容 お齋弁当(昼食)をいただいた後、14時からの法要にお参りいたします。また法要終了後、帰敬式を希望される方は、引き続き受式いただけます。

築地本願寺報恩講参拝  
期日 11月12日(日)  
時間 12時集合  
場所 築地本願寺  
(中央区築地3-15-1)

## お知らせ

# 東久留米会館の 行事案内

—Schedule—

## ▶ 1 1月の行事予定

### 公開講座

11月3日(金) 午後1時30分～

ご講師 ころ亭久茶氏  
テーマ 落語で学ぶ相続・遺言・後見  
※詳細は同封のチラシをご参照ください。

### 親鸞聖人御命日お晨朝総参拝

11月16日(木) 午前7時～

月に1度、朝のお勤めにお参りしませんか？  
お供物のおさがりをプレゼントいたします。

### おみがき・境内清掃

11月19日(日) 午前10時～

報恩講に向け、仏具のおみがき、  
館内・境内の清掃を行います。  
ご協力よろしくお願ひいたします。

### 報恩講

11月23日(木) 午前10時～  
午後1時～

ご講師 山崎 龍法師(東京都 法善寺)  
親鸞聖人の御命日にあたり、聖人の  
ご遺徳を偲び、感謝する法要です。  
同封の葉書にて、出欠のご返信をお願いします。

## ▶ 1 2月の行事予定

### 第2回キッズサンガ子ども会

12月9日(土) 午前10時～

冬の風物詩、焼き芋をします。  
初めてのお子さまも大歓迎です。

### 常例法座

12月17日(日) 午後1時～

ご講師 小林 賢五師  
(神奈川県 川崎多摩布教所慶念寺)  
どうぞ、お気軽にお参りください。

### 除夜会

12月31日(日) 午後4時～

1年を振り返り、改めて仏さまに感謝の  
気持ちを新たにする法要です。

東久留米会館会報「ともしび」  
第259号  
発行日 2017年11月1日  
発行者 安邊 泰教  
住所 東京都東久留米市柳窪5-8-30  
電話番号 042-474-6787

**編集後記**  
最近、長女の学校の友達が  
頻繁に遊びに来るようになり  
ました。初めてお寺に来る子  
ども達は、建物の大きさや広  
さに驚き、「こんな家に住んで  
みたい！」と羨ましがります。  
私たちにとっては当たり前前  
に思うことも、初めて来る子ど  
も達にとっては新鮮に感じる  
ものなのだなあと、気づかさ  
れたことです。(安)

**今月のお仏飯米のご進納**  
山下 肇様  
木村 ひさえ様  
ありがとうございます。